

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 12月 20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670300575号
法人名	有限会社カリヤ
事業所名	グループホーム愛
所在地	鹿児島県鹿屋市下高隈町5039番地8 (電話) 0994-40-6100
自己評価作成日	平成 23年 12月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社所有の畑が2アールあり、年間を通じて季節の野菜、芋等を栽培している。その日の調理当番は畑から収穫した野菜類で調理できる。又、代表により「今、何が収穫できるか」や収穫した作物が届けられ、日々野菜の情報が入手できる。無農薬である。肥料もコンポスト等有機肥料を使用している。他にびわ、みかん等も利用者が収穫に関わる。また数キロ離れた場所に山林を所有しており、月2回(1日と15日)山神祀りに入居者が代表と同行して神酒を楽しむ。
※畑の耕作は近隣の農家がいつの間にかやってくれる。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿屋市郊外に位置し、閑静な住宅地に建てられているグループホームである。運営者の自宅も隣接していることから、「利用者が地域の仲間と仲良く暮らせるように」という理念を謳い、地域に溶け込んだグループホーム運営が行われている。ホームは2つの地区境界にあるため、両地区の町内会に加入している。そして、避難訓練も東原・大黒両消防分団の参加により協力体制が築かれている。自己アピールにもあるように、ホームに隣接した広大な畑の耕作なども、地域の協力が得られ自然体で良好な関係が築かれている。
また、年1回の家族会は利用者、家族、地域の方々が交流する機会として多数の参加が得られている。利用者は職員と畑の野菜や果物などの収穫を楽しみ、自然と触れ合いながらスローライフを送っている。無農薬の食材をふんだんに使った食事は利用者の健康と家族の安心にも繋がっている。
職員は認知症ケアの難しさを感じながらも、利用者の笑顔が見られることを励みとして日々研鑽している。今後も少人数だからこそのケアを見出し、「その人らしい」生活を支援していこうと意欲が伺われる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者と職員の理念があり、入居者の理念は昼と夕食前に、入居者、デイサービス、利用者（昼）、職員で唱和する。	利用者の理念に「地域の仲間と仲良く暮らします」との文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。職員・利用者は昼食・夕食前に唱和しており、ホールに見やすく大きな文字で掲示してある。また、職員の理念は利用者との関わりについての心得としてとらえ、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームは2地区の境界に位置している為、双方の町内会に加入、運営委員の委嘱や季節毎の行事に参加したり2地区の消防分団による消防訓練に協力を得ている。更にホームが所有する畑の耕作や近隣で収穫された野菜等を届けてもらっている。年一回の家族会には地区全員を招待している。	代表者の自宅が隣接し、広大な畑の耕作など協力が得られ地域との良好な関係が築かれている。交通安全キャンペーン期間には、利用者がホーム前に立ち社会参加したり、また、地域行事（もちつき・運動会・夏祭りなど）の見学などに出かけたりなど無理なく地域の方々と交流できる機会を作っている。また、小学生が毎年訪れ、作文を読んでもらうなど地域の子ども達との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所には地区の住民からの介護相談等が度々寄せられ、支援の方法を居宅介護支援事業所と協力しながら伝えることが出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	交通安全への取り組み、感染症等衛生面への注意、キャラバンメイトの育成等について意見を出し合う等してサービスに反映している。	運営推進会議は2カ月に1回、2つの地区の老人会長・家族代表・行政の出席を得て定期的に開催している。ホームの状況報告、インシデントについて、研修報告、事故報告などを行っている。	

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	東日本大震災による大船戸に役所から派遣された職員の現場での様子や感染症、介護認定による認知症の割合など、市役所の窓口に出向いたり電話での相談など連携出来ている。	いつでも相談できる連携がとれ、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命への危険性が大きくない限り身体拘束はしないケアを行っている。	重要事項説明書に「当ホームでは原則として利用者に身体の拘束は行いません」と明記されており、拘束をしないケアに取り組んでいる。ホーム前の道路は交通量も多く、徘徊する利用者の安全面を考慮して、家族に同意を得て玄関に施錠することもあるが、外出傾向の利用者には職員がさりげなく着いて行き、散歩などで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へも参加し職員会議の中でも学ぶ機会あり。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については研修会への参加もできている。現在活用して支援している利用者はなし。		

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明を行い、同意の署名、捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見や苦情については、運営に反映するよう直ちに職員への周知がなされる。よろん箱の設置あり、またアンケート調査を行っている。	重要事項説明書に第三者委員も明記し、外部者に表せる機会を設けている。また、面会時や電話連絡の際に家族から意見や要望を聞き出すようにしている。毎年家族会を開いており、より信頼関係が結ばれるように努めている。アンケート調査も実施しているがなかなか意見・要望が得られない。しかし利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回（有）カリヤの6事業所の管理者と3取締役による幹部会議を開催して運営に反映させている。その他、お茶 食事時間（休憩時間）や事務所でいう意見や提案は、管理者を通じて代表に伝達され3役の話し合いにより良い方向には反映することとなる。	毎月職員だけで行っているケア会議と、代表者・管理者も参加し行っている職員会議で、意見交換や話し合いを行っている。出された意見・提案などは業務やサービスの質の向上に反映させている。レベルアップに向けた資格取得の支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できていると思う。		

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者はその職員の経験年数やレベルに応じた外部研修を受講させ、資格取得や資質の向上に対して惜しみない応援をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>経営者会議やグループホーム連絡協議会では、認知症セミナーや研修、懇親会等を通じて意見交換している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報を収集し（把握）本人に関わりながら、共同生活がうまくいけるよう職員も取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等聞きながら安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成上必須と思う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の望む生活に近づけるよう努力している。本人のペースで過ごしてもらっている。		

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には機関誌により日常生活の様子や、面会時又は電話で様子や状態を話したり手紙により協力を頂いたりする。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	場所は変わっても生活の場である為できるだけホームで本人の居場所を住み心地の良い暮らしの場として提供出来るように特に家族や友人との関係は大切に考えている。	墓参りやなじみの店での買い物など、本人の希望に応じて支援している。また、友人・知人が訪ねやすいように明るく、開放的なホームの雰囲気作りに配慮して、なじみの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言葉かけを行い、食事やレクリエーション等を通して全員で集まったりする時間を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院したり長期入院で退居しても、代表等が定期的に見舞い、退院後の行先について本人や家族の相談や支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向は尋ねているが「わからない」と言う人が殆どなので本人の心身の状況を踏まえた対応をしている。	散歩や入浴の順番、食べたいものなど、日常の暮らし方の希望や意向など会話の中から把握して対応している。困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などを元に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行っている。より一層把握すべきとは思う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議やその他、業務時間に職員に尋ねたり、サービス担当者会議では家族、本人から出た意見等も反映している。モニタリングでは家族の満足度等もつと尋ねていけるようにしたい。	本人、家族の意見、要望や毎月のケア会議で職員の気づきや意見交換などを行い、現状に即した本人本位の介護計画を作成している。今後はより「その人らしい」暮らしを支援する介護計画を作成できるよう、計画作成担当者の課題としている。	

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌への記載もされ申し送りする。連絡ノートの活用、ケア会議での情報収集など活かす。個別の記録は各利用者の過去の心身の状況や経過を辿る事で現在にいかされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り要望はかなえている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二地区の消防分団による災害時の協力体制、近隣の住民との交流により利用者は安心して暮らせる環境にあると思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できている。(かかりつけ医への定期受診や、薬がきれることのないよう支援している)	利用者及び家族の希望に応じたかかりつけ医となっており、本人・家族の状況に応じて通院介助の支援を行っている。また家族が連れて行く際は状況提供表を持たせている。緊急時など、協力医療機関との連携が図られており、常勤の看護師による利用者の健康管理が行われている。	

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は24時間連絡可能な状況にあり、ホームからの利用者の心身の異常に対応できている。状態に応じて電話で指示したり必要があれば出向いて状況判断をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	できている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時に家族に説明している。また、身体状況に応じて医師を交えて話し合いを行い、ホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。看護師を中心とした勉強会や、消防署主催の救命講習などで職員は不安なく支援に取り組めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等の訓練は定期的には出来ていないが、急変時の連絡網や連絡体制は整っており、早急な対応が出来ている。		

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火訓練は年に二回、夜間を想定して実施している。町内会にも協力を得て放送をしてもらう。</p>	<p>夜間想定で定期的な訓練を行っており、東原・大黒両地区の消防分団との協力体制が築かれている。また、居室の表札の裏に、夜光塗料で避難済みと明記して暗闇でも認識できるように工夫している。スプリンクラー・自動通報システムは設置済みである。また、カセットコンロや数日分の備蓄は確保している。</p>	

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折、人格の尊重もされず声も大きく、プライバシーを損ねた言葉づかいであると感じる時がある。	職員会議や日常の業務の中で機会を捉え話をしている。特にことばの虐待については研修計画に入れ、職員の意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の思いや希望が表せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員にもよるがその日の業務では職員側の都合を優先していることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	美容院につれて行きカットや白髪染めをする時もある。出来るだけ本人に髪をといてもらう衣類は選んで頂くこともある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好を取り入れるようにしている。	食材の調理方法や漬けもの作りなどを教わったり、個々の力量に応じた準備や片づけなど、職員とともに行えるように支援している。また、ホームの畑では野菜や果物が豊富に収穫できるので利用者の楽しみにもなっている。ときには気分を換えて、外食や弁当持参で花見に出かけたり、気候のいい時期は日光浴を兼ね中庭で昼食やお茶を楽しむこともある。	

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量やおかずもその人に合わせて考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操や食後の口腔ケアはしっかりとなされている。また訪問歯科による歯科医師の指導や必要があれば治療もでている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間もトイレで排泄出来るよう誘導、付き添い、車椅子等介助している。	日中は、職員のコマメな声かけ誘導によるトイレでの排せつを支援している。自立している利用者もおり、継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表、介護日誌への記録、本人への排便の確認をしながら便秘への対応も行っている。		

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の身体状態に合わせて実施ゆっくりと入浴してもらっている。	毎日入浴するのが日課の利用者もあり、曜日、時間帯、入浴順番など個々の希望や身体状況に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	まさにその通りに実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的等知識が必要と思われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯物たたみ、下膳などできる事はやってもらう支援をしている。レクでは塗り絵や簡単な計算など集中して取り組む姿が見受けられる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「外の空気が吸いたい」人。や便秘がちの利用者などホーム周辺の散歩や花摘みなどを行う 又山神祀りに月2回外出する利用者もある。	個々の気分や天候に応じて、畑の収穫やくだもの狩り、散歩、ドライブ、買い物など戸外に出かけられるように支援している。また、受診も外出の機会として売店や自動販売機で買い物をすることも楽しみのひとつと捉え、支援している。地域行事の見学や外食、弁当持参の花見などにも出かけている。山神詣りはお酒好きな利用者の楽しみにもなっている。	

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	自己管理出来る方は少額で持っている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	家族に電話をかける利用者や外国に住む家族からかかってくる電話で話ができ満足の人もおられる。携帯電話を持っている人もいる。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	不快や混乱を招くような刺激はないと思われる。	明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。テーブルやソファなど利用者が思い思いの場所でくつろげるように配慮されている。共用空間のリビングを中心に居室が造られているので利用者の見守りがしやすく、居室にいても孤独感を感じない。また、リビングから直接中庭に出られるので開放的である。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	利用者同士又は通所利用者と和やかに話がはずむ日もある。居室にいたりホールでは窓から外を眺めている人、ソファでくつろいだりテレビをみたりして過ごす		

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	本人、家族の要望に添う。	<p>入居の際に使い慣れたものやなじみの物品を持ち込んでもらえるように、家族に説明している。布団、テレビ、ラジオ、タンス、仏壇、人形などが持ち込まれている。家族の写真や飾り物もあり、居心地良く過ごせるように配慮されている。また、身体状況に応じて畳敷きの居室もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	障害物は殆どなく手すりも付いている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム愛 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない